

剣に取り組んでいる。またイリंगा町郊外にある村々にも国の天然資源開発省直営の苗畑で育成された苗木が無料で配布され植林が奨励されていることからみても、タンザニア政府の植林に対する力の入れようは、かなりのものと言えよう。これに一般住民の理解が加われれば、この植林事業もいっそう推進されるのであろうが、それには彼等の生活がもう少し楽になり、国の将来を考える余裕をもてるようになる事が先決かもしれない。

最後に先日、'84, 9月15日付の DAILY NEWS (タンザニア国内唯一の英字新聞) に掲載されていた国内の植林推進会議でのニエレレ大統領の声明文を一部抜萃しておく。

### Cut a tree, Plant three—NYERERE

「一本切って三本植えよ」。もし我々が植林に無関心であれば、我々の国はたちまち危機にひんし、我々の子孫は不毛の地を受け継ぐことになる。野生動物保護地区やキリマンジャロ山のような世界的遺産も危ない状況にある。植林を急がなければならない。中央政府、地方自治体、諸施設、学校、村そして各家庭でも協力して植林を行うべきであり、これを全国民の義務とする。

なお、後日この会議を受けて UNEP (国連環境計画) は今後タンザニア国内の植林事業に協力していくことを発表した。

## 新刊紹介

### ◎熱帯の自然——中南米の降雨林での生と死

(FORSYTH, A. & K. MIYATA: Tropical nature. Life and death in the rain forest of central and south America. Charles SCRIBNERS' Sons, N.Y. 248 pp. 1984, 邦価 5,000 円)

熱帯の森林、あるいは、自然への関心が一段と高まっている折、次々と一般向の森林・自然に関する著書が出版されている。本書もその一つだが、エクアドル、コスタリカを中心とする中南米の熱帯林の自然紹介である。しかし、ありきたりの奇妙な動植物の紹介でなく、熱帯森林の植物と動物の相互関係をむつかしい学術用語を使うことなく紹介している。著者らが幅広い生態学的知識の持ち主であることがわかる。

アペンディクスとしてつけられている熱帯への旅のガイドが、旅行案内でなく、熱帯森林での生活・自然観察のための装備などについての解説であることが、本書の性格を表わしている。熱帯森林の多様性、重要さ、そして、消失の現状を広く知ってもらうという姿勢がよくでている。

なお、著者の一人、Ken Miyata は、名前からみて日本人、ないし日系人なのであろうが、本書のゲラ刷りをみることなく、1983年イエローストーンのビッグ・ホーンリバーで若くして不慮の死をとげられたとのことである。

(渡辺 弘之)